

## 第6章

# 今後の取り組み

### 6-1 ビジョンの総括

一般の水道事業計画は、現状からある程度見通せる範囲の見通し(おおよそ10年～15年程度)を踏まえ、これに対応する方法を決めていきます。しかし、水需要の減少が本格化し、長期的な見通しは決して楽観視できない時代では、現状の延長線上で水道事業の運営を考えていては、次の世代に水道事業をつなぐことはできないと考えます。このような点から、事業計画とは別に水道事業ビジョンを策定する意義があります。

課題の解決の起点は「課題があること」を認識することです。課題が正しく把握されていれば、解決へ向けて動き出します。しかし、様々に見える課題は互いに原因と結果の関係を成しており、複雑になっています。このような複雑な問題を解決するためには、最も根本的な「真の課題」が何かを見出すことが大切です。

本水道事業ビジョンの策定では、持続、安全、強靱、の3つの専門部会を設置し、それぞれの視点から「真の課題」を見出すために検討を重ねました。3つの専門部会が見出した「真の課題」を並べてみると、水道に関わるあらゆる関係者の間で認識を共有して連携を実現することの難しさが見て取れます。しかし、そのことが共通の「真の課題」であり、同時にこれを実現することで「理想像」に近づくと考えます。

本市の水道事業ビジョンは、水道部門の全職員とお客様センターの代表が参加し、自らの手で策定しています。実際には、業務上の負担も考慮しながら1年半に渡り、日常業務の間に専門部会を複数回開催し、水道部門の全職員とお客様センターの代表が策定過程で感じた課題感を念頭にアイデアを出し合い、出されたアイデアの中から方向性を選ぶ方法をとっています。

また、本市は平成17年に市町村合併を経ており、旧市町村の記録が散逸する場合も考えられました。今回のビジョン策定は、水道事業や施設の現状の情報を整理し、散逸を防ぐ良い機会となりました。こうしてとりまとめた情報は、今後の活動において貴重な記録となると考えます。

今後、水道部門の職員は策定したビジョンを掲げて日常業務や緊急対応に当たっていく訳ですが、困難に立ち至ったとき、このビジョンで見出した「ありたい姿・あるべき姿」に立ち返えることで、進むべき方向性が見出せるものと思っております。

## 6-2 ビジョンの進捗確保とレビュー

本来、ビジョンとは長期的な視点であるべき姿を考えるものであり、目標年度の定めは必要ではありません。しかし、時代の趨勢にあわせてビジョンを検証し、ビジョンの軌道修正を行うこともまた必要です。

本水道事業ビジョンでは、10年先の具体的な対応事業の実施目標として平成37年度を目標年度としていますが、実施していく個別具体策は、おおよそ3カ年程度の実施単位をとっています。そこで、今後のプロジェクトのモニタリング及びビジョンの見直しスケジュールについて、以下のように設定します。

